

# 第3回新潟県食肉センター再編検討委員会の概要

## ○ 開催概要

日 時：令和7年9月18日（木） 午後2時～3時10分

会 場：新潟県自治会館 201会議室

出席者：委員20名中、15名出席

## ○ 結論

食肉に纏わる幅広い関係者を対象に、新設の食肉センターの仕様や運営体制、利用意向等を照会するアンケートを実施する。

当該アンケート結果を踏まえ、健全経営を前提に、更に具体的な施設の仕様や運営体制等を議論・立案する「作業部会」を別途設置し、本委員会に諮る案を作成する。

## ○ 議事概要

概要	内容
アンケートの実施、作業部会の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケートは、検討委員会で委員が話しにくいことを把握できる有効な取組であるとともに、既設の食肉センターを利用していない事業者や、生産者にも広く意見を聞く必要がある。</li> <li>○ 作業部会は、新施設を確実に設置、運営していくために必要であり、スピード感を持って叩き台を作る場として重要である。</li> <li>○ 従業員の高齢化や将来的な人材育成の難しさもあり、現在、自社で対応している食肉加工を新たな食肉センターで対応できればと考えている。アンケートの実施を通じて、関係者みんなが良い方向に進むと良い。</li> <li>○ 今後の整備計画の策定においてはコンサルタントやアドバイザーのような専門家に参画してもらう必要がある。</li> </ul>

# 第3回新潟県食肉センター再編検討委員会の概要

## ○ 議事概要（つづき）

概要	内容
設置場所	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 新たな食肉センターの設置に際し、場所の決定が最優先である。</li><li>○ 現行の食肉センターの人員を移行させることができるか等、人手確保の課題感が大きいことから、採用しやすい地域に新センターを立地することが望ましい。</li><li>○ 候補地域としては、比較的採用しやすい既設の食肉センター付近や、高速道路のインターチェンジから近く物流の利便性が高いなど、県内外からの集出荷に適した地域であることが望ましい。</li><li>○ 既設の食肉センターの稼働が老朽化により限界を迎える前に、スピード感を持って適地の選定を進める必要がある。</li></ul>
施設運営	<ul style="list-style-type: none"><li>○ と畜業務のみでは利益の確保が困難であるため、内臓処理や食肉加工の工程も取り込むことや、輸出対応の機能を持つことで付加価値を高めるとともに、稼働率を上げる仕組みを取り入れ「儲かる食肉センター」とする必要がある。</li><li>○ 販売機能を持つことが必要だとの意見がある一方、新会社の販売への参画は、出資者となる食肉販売事業者の本業と競合するため現実的に難しい。</li><li>○ 収益の試算上、減価償却費に加え、固定資産税の負担も大きい。租税負担を十分に考慮しながら、運営を検討すべきではないか。</li><li>○ 本県は牛、豚とも大きな産地がないため、県外集荷を進め、と畜から食肉加工まで一貫して対応できる体制を構築することが望ましい。</li></ul>

# 第 1 回新潟県食肉センター再編作業部会の概要

## ○ 開催概要

日 時：令和 7 年 11 月 10 日（月） 午後 2 時～ 4 時 10 分

会 場：新潟県自治会館 401 会議室

出席者：全農にいがた、ナカシヨクミートフーズ、三国、よね一、新潟市食と花の推進課、新潟ミートプラント、長岡食肉センター、新潟県畜産課・食品・流通課

## ○ 結論

第 4 回検討委員会、基本構想策定に向け、本日出た意見を踏まえ、次回作業部会までに事務局が候補地、国の補助事業、他県事例等情報収集する。

## ○ 議事概要

概要	内容
設置場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果から、長岡食肉センターより北となるだろう。</li> <li>○ 青地農地は規制をクリアするのに時間がかかるため、今回のスケジュールに合わず、適さない。施設建設用地としては、最低でも 4 ha 必要。そのためのまとまった用地が手配できる場所は工業団地くらいではないか。</li> </ul>
と畜頭数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果からはどの程度のと畜規模となるのか判然としない。</li> <li>○ 県外の生体を持ってくることも考えなくてはならないので食肉事業者から聞き取って、早急に積上げるべき。</li> </ul>

# 第1回新潟県食肉センター再編作業部会の概要

## ○ 議事概要（つづき）

概要	内容
輸出	<ul style="list-style-type: none"><li>○ アンケート結果では、取り組むべきとの意見が多いが、輸出機能を付加することが施設運営上プラスになるか試算する必要がある。</li><li>○ 輸出対応型にすることで、新施設でのと畜が増える可能性。</li><li>○ 国の補助事業について、輸出の要件を調べるべき。</li></ul>
加工・内臓処理	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 経営上、取り組むべきだが、どういう対応とするかは、試算することで決まっていく。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 豚のと畜は、近年導入が進み、衛生上優位な仕様となる「湯はぎ」式とすべき。同じ仕様の施設と相互補完関係となる。</li><li>○ 民間とはいえ、県内に整備されているほかの施設の情報も含めて議論していく必要。</li><li>○ 高知県では、2か所にあった施設を再編し、豚処理施設と牛処理施設を別々に整備している。新潟にも参考になるだろうから、情報収集すべき。</li><li>○ 再編により、現状より不便になる生産者や事業者が出てくることから、支援等配慮が必要。</li><li>○ アンケートの回収率が低いことから、自分事となるよう、適時適切に説明会の開催などを通じて周知していく必要。</li></ul>

# 第2回新潟県食肉センター再編作業部会の概要

## ○ 開催概要

日 時：令和7年12月22日（月） 午後1時55分～4時10分

会 場：新潟県自治会館 401会議室

出席者：全農にいがた、ナカシヨクミートフーズ、三国、よね一、新潟市食と花の推進課、新潟ミートプラント、長岡食肉センター、新潟県畜産課・食品・流通課

## ○ 結論

1月下旬に再編検討委員会を開催し、再編基本構想を策定する。

## ○ 議事概要

概要	内容
設置場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果や検討委員会での意見を踏まえて事務局で整理した10候補地から4候補地を選定し、今後、外部コンサルを活用するなどして候補地毎に設置の実現可能性調査等、更なる精査を実施する。</li> <li>○ 4候補地を優先して調査するものであり、ここから漏れた候補地について完全に排除したわけではない。</li> <li>○ 食肉センターで働く人の確保、育成は大事であり、現行施設で働いている方が新しい施設で働くことを踏まえて検討するべき。</li> </ul>

# 第2回新潟県食肉センター再編作業部会の概要

## ○ 議事概要（つづき）

概要	内容
と畜頭数	<ul style="list-style-type: none"><li>○ アンケート結果から仮置きのと畜頭数は、設置場所に応じて次のとおり。 牛：下越15頭／日、中越9頭／日　豚：下越1,030頭／日、中越738頭／日</li><li>○ 牛は毎日処理するわけではなく、週に2、3日時間を区切って処理するのが一般的なので、1回分のと畜頭数を規模とすべき。また段階的に他施設からの移行を図っていくため、施設建設何年後を想定するかで頭数が変わる。</li><li>○ 豚は試算値でおおよそ間違いない。季節による差あり。</li></ul>
必要面積	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 豚700頭／日の場合は最低4ha程度を目途に候補地を探す必要あり。</li></ul>
再編基本構想案	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 食肉センターの将来像のスケジュールは不確定要素を踏まえて「目指すスケジュール」、「新施設の稼働まで関係者の協力体制を継続」することを記載する。</li><li>○ 設置場所の条件に、スケジュールに関するなども必要。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1月下旬に再編検討委員会を開催し、再編基本構想を策定する。また、流通合理化計画策定協議会を開催し、年度内に流通合理化計画を策定する。</li><li>○ 再編検討委員会は基本計画策定委員会に移行する。作業部会は継続し、議論を続ける。</li></ul>

令和 8 年 1 月 30 日  
新潟県農林水産部食品・流通課  
畜 産 課

## 県内食肉センター再編に向けたアンケート結果について

### 1 目的

新設する食肉センターの仕様や運営体制などについて、今後、食肉センター再編検討委員会内に置く「作業部会」でより具体的な議論を行うに当たり、生産者、食肉事業者等の関係者が希望する食肉センター像や、利用の意向などを把握し、今後の検討に活かすため実施したものの。

### 2 アンケート実施概要

#### (1) 調査期間

令和 7 年 10 月 7 日(火)～12 月 1 日(月)

#### (2) 調査方法

電子メールまたは FAX

#### (3) 配布・回収状況

	畜種	地域	回答数	配布数	回収率
生産者	牛	下越	15	51	29.4%
		中越	11	19	57.9%
		上越	2	11	18.2%
		佐渡	2	2	100.0%
		小計	30	83	36.1%
	豚	下越	18	30	60.0%
		中越	12	24	50.0%
		上越	1	1	100.0%
		佐渡	0	1	0%
		小計	31	56	55.4%
	不明	1	—	—	
計	62	139	44.6%		
食肉事業者			21	22	95.5%

#### (4) 生産者の平均年齢及び後継者の有無

	平均年齢 (歳)	後継者の有無 (人、%)		
		あり	なし	未定等
牛	62.7	7(24.1%)	19(65.5%)	3(10.3%)
豚	51.7	15(45.5%)	13(39.4%)	5(15.2%)
計	56.6	22(35.5%)	32(51.6%)	8(12.9%)

## アンケート集計

### 【生産者】

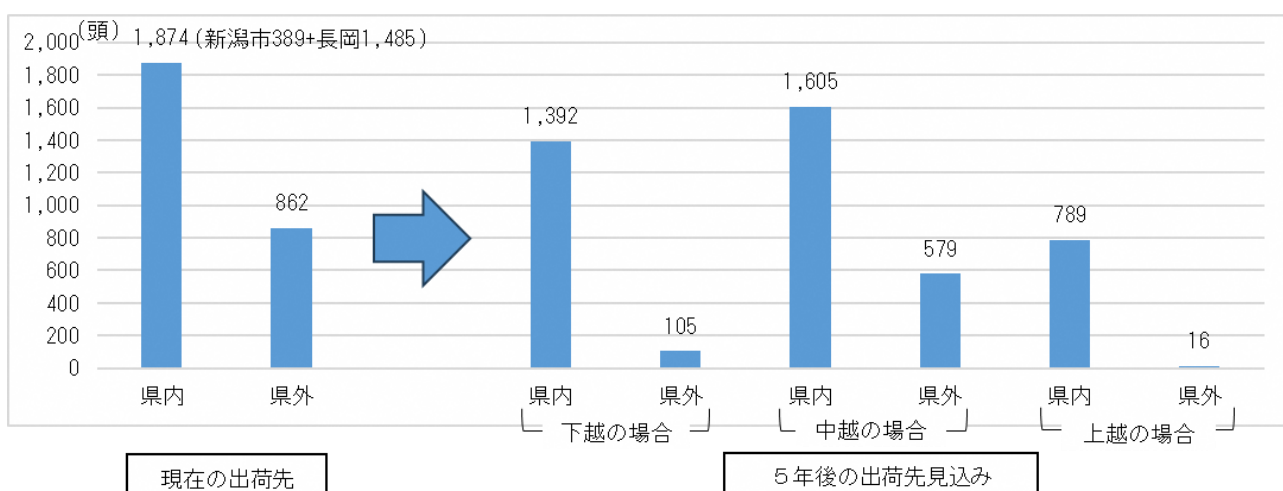
#### 1 現在の出荷先と5年後の出荷先見込み

新設する食肉センターが下越、中越、上越それぞれの場合の年間出荷先見込み

##### (1) 牛

(単位：頭)

牛	現在（令和6年度）の出荷先						5年後（令和12年度）の出荷先見込み					
	新潟市 a	長岡 b	県内計 a+b	東京 c	その他 d	県外計 c+d	下越に新設の場合		中越に新設の場合		上越に新設の場合	
							県内利用	県外利用	県内利用	県外利用	県内利用	県外利用
下越	301	334	635	232	582	814	865	92	462	3	462	3
中越	88	915	1,003	40		40	413	9	909	22	213	9
上越		176	176	6		6	50	0	170	550	50	0
佐渡		60	60	2		2	64	4	64	4	64	4
計	389	1,485	1,874	280	582	862	1,392	105	1,605	579	789	16



#### (意見)

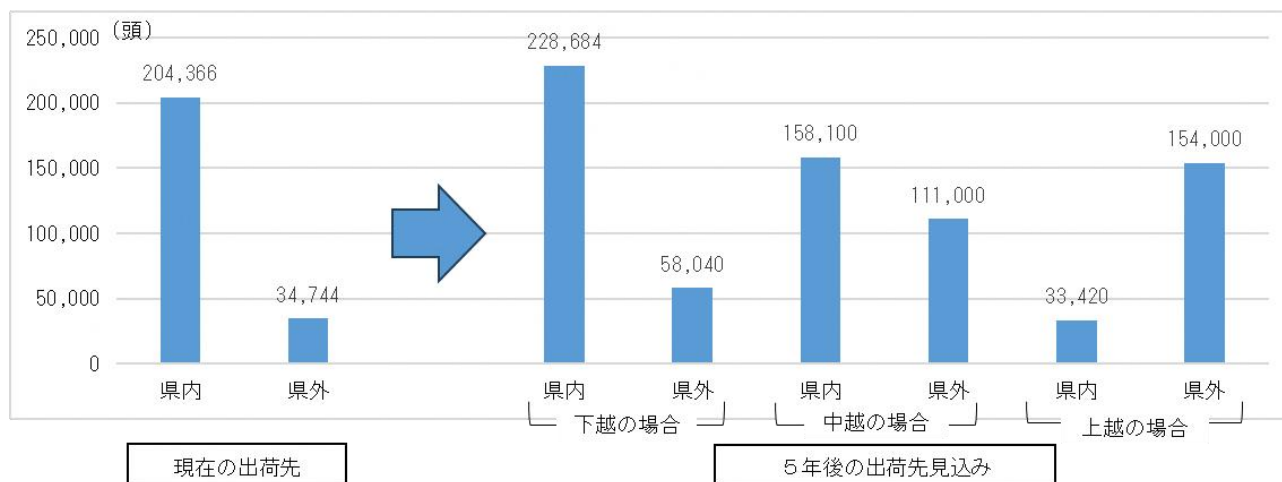
- ・ 今までは岩手に運び対応した。新潟にあれば近県からも利用があると思う。(下越)
- ・ 輸出できれば頭数はもっと増える。(下越)
- ・ 輸出対応があれば頭数を増やしたい。牛トレーサビリティ法施行前は他県でと畜して良い値段で売れたが、施行後は和牛は地産地消と言われ、売れなくなった。新潟和牛では国産和牛の価格でしか売れないので今の価格では肥育しても合わないが、新潟でと畜しなければ輸送費がかかるので新潟に輸出できると場を作り、ヨーロッパや他へ輸出できるようにしてもらいたい。でなければ新潟で和牛を肥育しても続かない。(下越)
- ・ どこに設置されても県内出荷になる。(下越、佐渡)
- ・ 集出荷を担う事業者(JA等)の意向にもよるが、下越地区でも比較的距離が近い場所(燕市や三条市等)に新設されるのであれば出荷は可能。(中越)
- ・ 設置場所がどこであれと畜しなければならぬ。公平性を見れば中越地区に設置するしかないのでは。(上越)

(見込み数) 現状と乖離しており、分析が困難。あえて言うなら、下越～中越設置か。  
 (意見) 県内でのと畜は必須。下越、中越への設置で輸出対応の要望あり。

## (2) 豚

(単位：頭)

豚	現在（令和6年度）の出荷先					5年後（令和12年度）の出荷先見込み					
	新潟市 a	長岡 b	県内計 a+b	しばた c	県外 d	下越に新設の場合		中越に新設の場合		上越に新設の場合	
						県内利用	県外利用	県内利用	県外利用	県内利用	県外利用
下越	147,907	27,639	175,546	49,591	34,744	198,504	54,000	126,150	107,000	11,500	150,000
中越	1,072	27,712	28,784	4,500	4,000	30,180	4,000	31,910	4,000	21,880	4,000
上越		36	36				40	40		40	
佐渡											
計	148,979	55,387	204,366	54,091	38,744	228,684	58,040	158,100	111,000	33,420	154,000



※1 現在の県内出荷先にしばたパッカーズは含まない。

※2 5年後の県内出荷先見込みは、しばたパッカーズを含めているもの、含めていないものが混在していると考えられる。

### (意見)

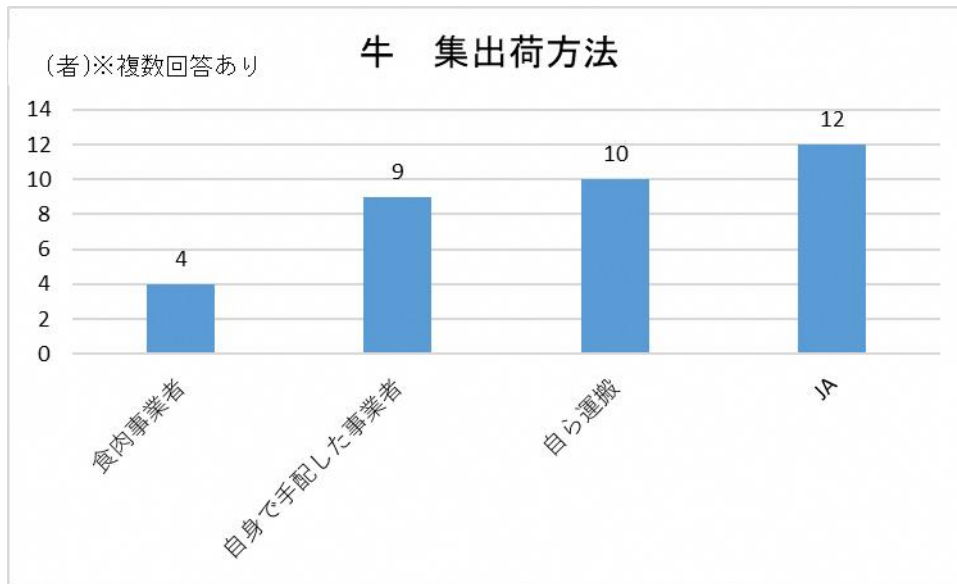
- ・ 出荷輸送を行ってもらえれば、増やせる場合あり。(中越)
- ・ 新潟県の3地区で最も多い地域、県外(東北地域)の生産者が持ち込みやすい地域が望ましい。上越、中越地区であれば他県でと畜及びカット処理を行った方がメリットあり。(下越)
- ・ 津南町から長野県中野市の北信食肉センターへは、通常で一日2往復、最大3往復。津南町では7件の農家で出資した運搬会社にて出荷。もし北信食肉センター利用者が新潟県内の食肉センターを利用する場合は、一日1往復しかできなくなるため、トラック及び人員を倍増する必要あり。また、現状は配送効率に応じた運賃を請求することが難しい。(中越)

(見込み数) 下越への設置が妥当か。

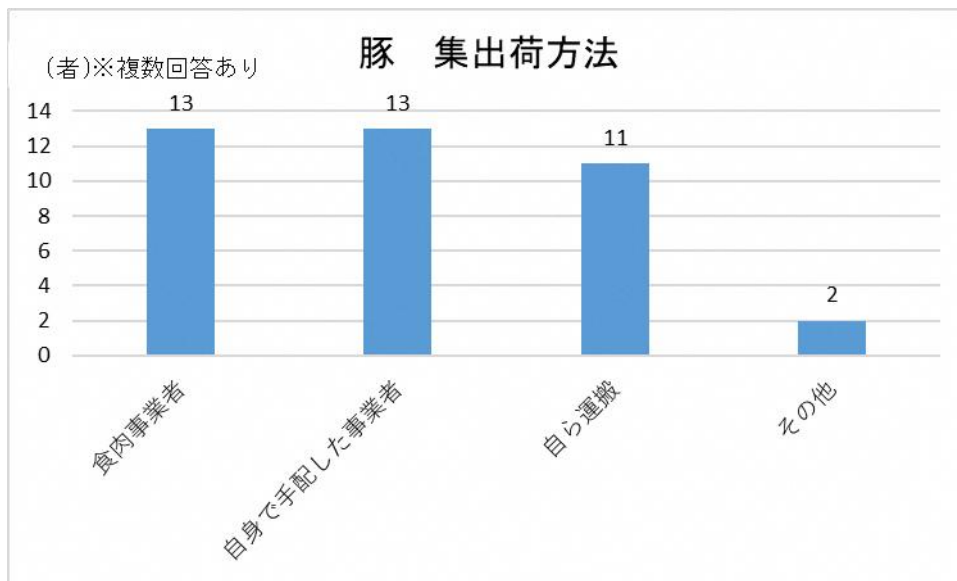
(意見) 生産の最も多い地域の設置を望む声。輸送に対する不安あり。

## 2 主な集出荷方法

### (1) 牛

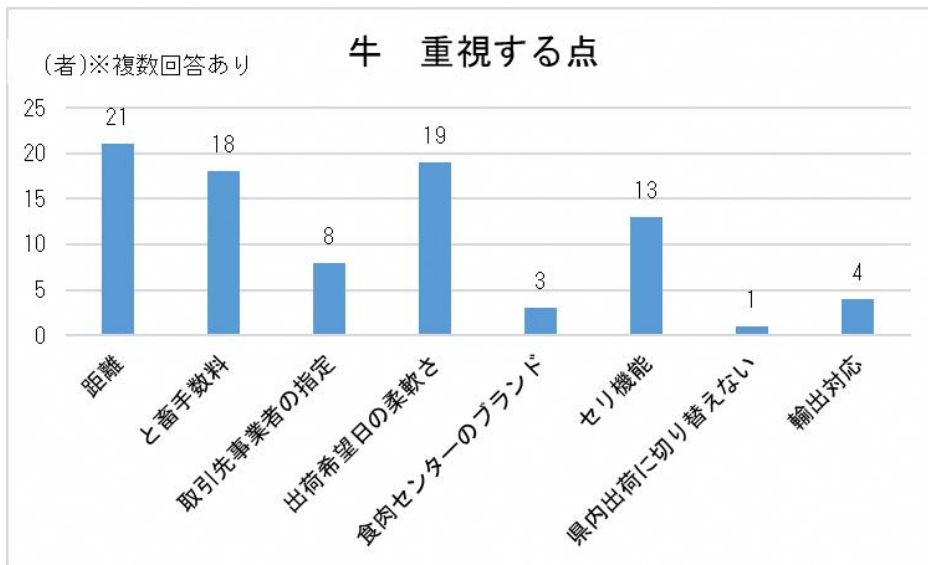


### (2) 豚



### 3 新しい食肉センターについて重視する点（県外出荷されている方は、県内出荷に切り替える条件）

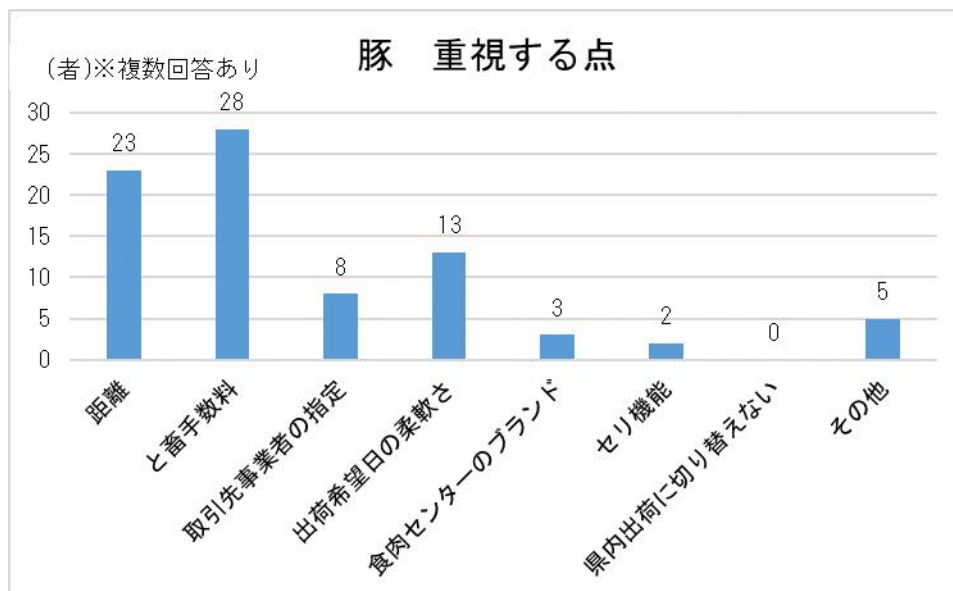
#### (1) 牛



(意見等) ※ 選択肢と同内容の記載は除く

- ・ 長岡食肉センターは出荷希望日が柔軟なので利用しやすい（下越）
- ・ 共済対象牛（病畜）等が発生した場合、早く柔軟に出荷できるので地元と畜場は絶対に必要（下越）
- ・ 相対で値決めは好ましくない。（中越）
- ・ 県内で全て売れば経費も少なくて済むので考える。（中越）

#### (2) 豚



(その他内訳)

- ・ 生体歩留りが良い事（下越）
- ・ 配送コストの補助（下越）
- ・ 出荷奨励金（下越）
- ・ 県内畜産者で家畜伝染病等が発生しても営業停止にならない立地（下越）
- ・ 衛生的。（下越）

(意見等) ※ 選択肢と同内容の記載は除く

- ・ 豚と牛のと畜手数料等で牛のコスト増、負担を豚に押し付けるような料金設定にはしないほしい。(下越)
- ・ 食肉センターの設置を当然やっていかなければならないが、と畜後の枝肉をどう販売していくかを前提に議論すべき。(上越)

距離やと畜手数料を重視

牛では、出荷日の柔軟な対応、セリ機能の要望強い

その他、生体歩留りや輸送補助に関心あり

4 食肉センターの再編に関する希望や意見 (自由記入)

(1) 経営・運営

- ・ 豚肉をメインに収益性のある経営のお願いと収益の変動に対し柔軟に対応できる経営をお願いする。(中越・豚)
- ・ 省エネを考慮した食肉センターを建設することにより光熱費の上昇をと畜手数料に反映しないようにしていただきたい。(下越・豚)
- ・ 利用業者及び生産者だけではなく、新潟県及び各市も含めた資本運営でなければまともならないと思う。25万頭処理規模のと場を運営するのであれば各利用業者及び生産者が責任を持ったと畜頭数を集めなければ厳しいと思う。(下越・豚)
- ・ 一日も早く公設民営で1本化してほしい。場所は食肉事業者のやりやすい所でいいと思う。農業県に食肉センターがないわけにはいかないので、輸出対応にして隣接県からの受け入れ等も視野に入れて進めてほしい。(中越・牛)
- ・ これまでの検討内容を伝え聞くに、牛事業者から場所や施設について多くの要望出ているとのこと。食肉センターのと畜手数料・と畜頭数を見るに、収益面で食肉センターを支えるのは豚だと考える。豚生産者・事業者が新潟から離れてしまうような再編にならないようお願いします。新潟から食肉センターが無くなるという最悪の事態にならないよう将来的な維持管理コスト、収益性を考慮した食肉センターにして頂きたいと思う。(中越・豚)
- ・ 人手不足、水道高熱費を考えたと畜場の建設が必須。(下越・豚)

隣接県からの受け入れも含めた、収益性を確保できる施設運営を望む声多い。

行政への多様な支援も要望あり。

(2) 場所

- ・ 養豚場を始めた時から全量、ずっと地元中越地区のと場を利用させていただいた。今回と場再編に関して、長岡市もしくはあまり距離の離れない場所に設置することを強く要望する。(中越・豚)
- ・ 利益が出ると場にするために、と畜頭数の多いものを優先的に考えて欲しい。できるだけ交通の便が良い場所(インターから10分以内)にして欲しい。(中越・豚)
- ・ 県の中心部、長岡あたりに1か所建設することが望ましい。(中越・牛)
- ・ 長岡食肉センターは老朽化や施設維持コストの問題もあるが、新しい食肉センターが中越地区以外に設置される場合はこれをすぐに廃止せず、各農場の集出荷体制の移行を整える目的として一定の併走期間を設けてほしい。(中越・牛)

- ・ 現状より遠方になる場合、運賃増加分の予算措置を希望する。(下越・牛)
- ・ 下越地区に食肉センターが新設され中越地区が閉鎖された場合、運送料の値上げ幅によっては長野県への出荷を検討する。(上越・豚)

と畜頭数の多い地域、県の中心部の中越への設置要望。

現状より輸送距離が出る場合の支援を望む声。

### (3) 輸出

- ・ 輸出に強い施設、輸出対応できるように。(下越・牛、下越・豚)
- ・ 国内需要の減少をカバーするために海外に販路を求める。県内で輸出対応ができればありがたい。(下越・牛)
- ・ 国内消費だけでは厳しいので輸出にも対応した食肉センターを希望する。基本は相対取引だが、セリも行える体制が欲しい。(佐渡・牛)
- ・ 建設コストが上がっている中で輸出希望の業者がどのように使用(と畜からカット処理すべてを使用)するのか? どこまでの輸出国を考え輸出処理頭数を考えているのかわからないとどこまでの使用用途にし建設コストに見合うのか知りたい。

建設に当たっては輸出について検討すべき、との声が多い

### (4) 防疫

- ・ 防疫対策を厳重にしていきたい。他業者大型トラックに対する防疫体制の徹底した取り組み。(下越・豚)

防疫体制は必須

### (5) 再編の進め方など

- ・ 県指導の元早急の計画実施をお願いします。食肉事業に畜産にはなくてはならない施設。地産地消の原点とも思う。(上越・牛)
- ・ 他業者大型トラックに対する防疫体制の徹底した取り組み収益の少ない牛肉側の意見より豚の意見を重視してほしい(養豚家はほぼ全量出荷している)。(中越・豚)
- ・ 再編に関して出荷頭数の減少で致し方ない。(中越・牛)
- ・ 長岡食肉センターのような対応であればいいと思う。(下越・牛)

現状多く出荷している豚を中心に議論を望む声。

将来を見通した(出荷頭数が減少する)施設のあり方を検討すべき。

【食肉事業者】

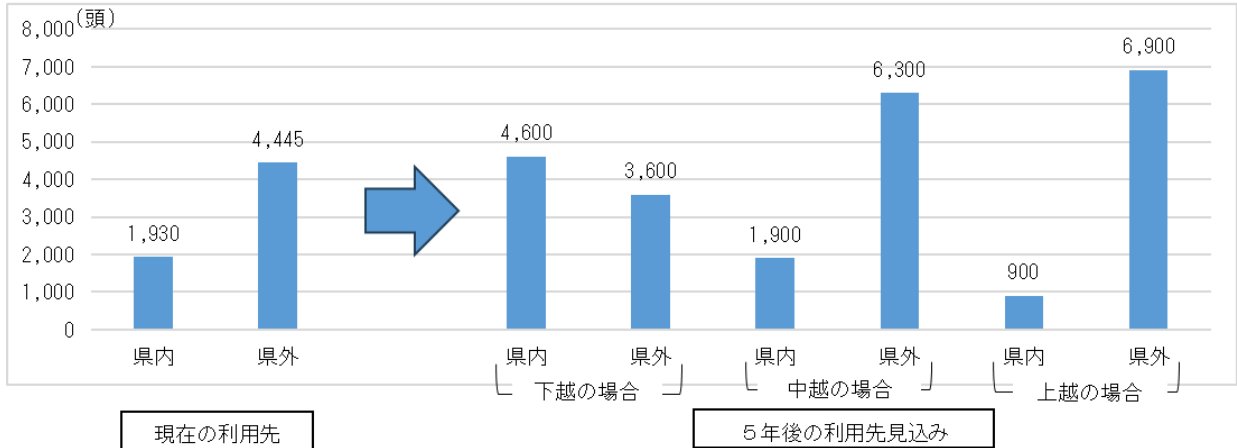
1 現在の利用先と5年後の利用先見込み

新設する食肉センターが下越、中越、上越それぞれの場合の年間利用先見込み

(1) 牛

(単位：頭)

牛	現在（令和6年度）の利用先				5年後（令和12年度）の利用先見込み					
	新潟市 a	長岡 b	県内計 a+b	県外	下越に新設の場合		中越に新設の場合		上越に新設の場合	
					県内利用	県外利用	県内利用	県外利用	県内利用	県外利用
県内産	791	1,069	1,860	235	1,600	200	1,850	300	900	600
県外産	20	50	70	4,210	3,000	3,400	50	6,000	0	6,300
計	811	1,119	1,930	4,445	4,600	3,600	1,900	6,300	900	6,900

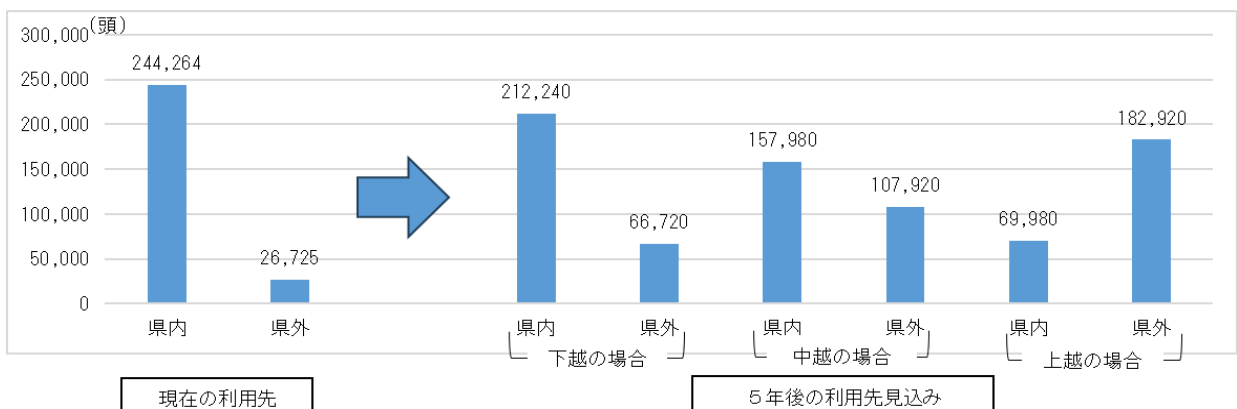


下越に設置することで出荷頭数が増加する見込みあり

(2) 豚

(単位：頭)

豚	現在（令和6年度）の利用先				5年後（令和12年度）の利用先見込み					
	新潟市 a	長岡 b	県内計 a+b	県外	下越に新設の場合		中越に新設の場合		上越に新設の場合	
					県内利用	県外利用	県内利用	県外利用	県内利用	県外利用
県内産	154,472	65,559	220,031	3,853	181,860	30,000	157,600	40,000	69,600	115,000
県外産	23,856	377	24,233	22,872	30,380	36,720	380	67,920	380	67,920
計	178,328	65,936	244,264	26,725	212,240	66,720	157,980	107,920	69,980	182,920



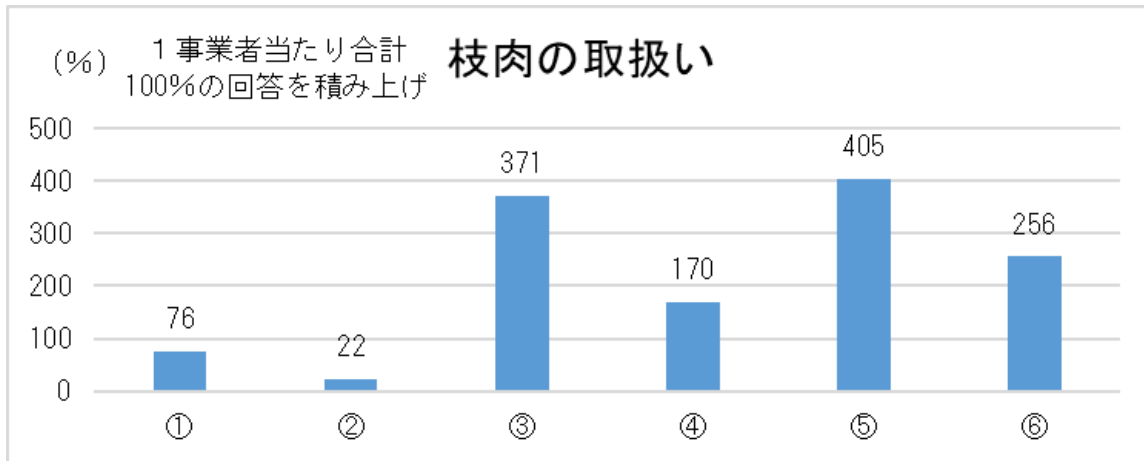
全体としては出荷頭数が減るが、下越の設置が最も利用が多くなる見込み

(意見等)

- ・ 生産者側からの要望で中・上越には運べず山形方面を視野に入れている。
- ・ 3地区で最も多い地域、県外（東北）の生産者が持ち込みやすい場所が望ましい。
- ・ 上越地区に設置させる場合は、他社へと畜を依頼していくと思う。
- ・ 新食肉センターは輸出対応が必須。県外からの牛肉搬入の増加も想定される。
- ・ 新設するのであればと畜処理だけでは食肉センターの利用は先々難しくなると思う（枝肉カット処理や内臓処理、その他加工設備も希望する）。
- ・ 輸出対応希望（希望はアメリカ対応レベル）

再編に当たっては、加工や内臓処理、輸出対応などについて検討する必要ありとの声

## 2 枝肉の取扱い状況

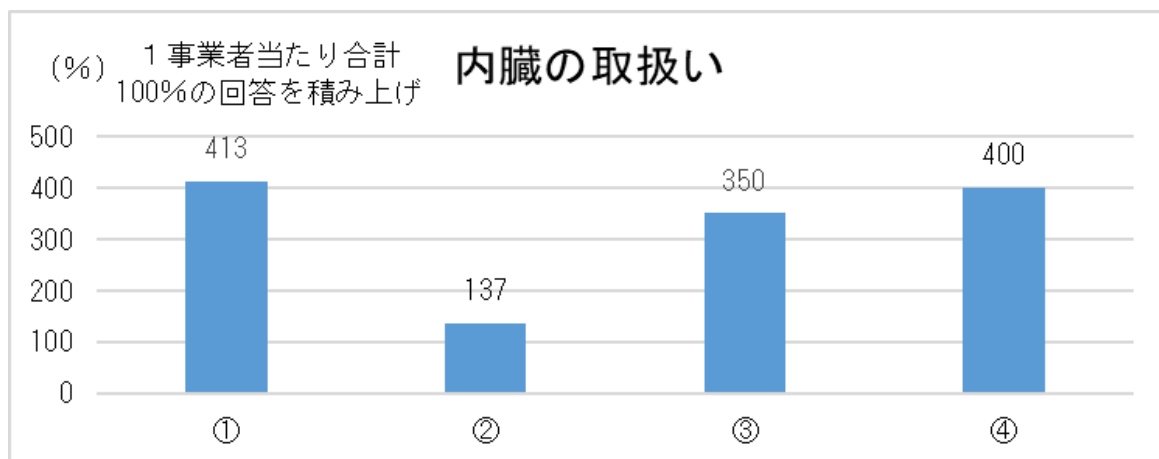


- ① 枝肉を冷と体で引き取り、枝肉として県内事業者へ販売
- ② 枝肉を冷と体で引き取り、枝肉として県外事業者へ販売
- ③ 枝肉を食肉センター内の加工施設で部分肉等に加工し、県内事業者へ販売
- ④ 枝肉を食肉センター内の加工施設で部分肉等に加工し、県外事業者へ販売
- ⑤ 枝肉を自社の加工施設で部分肉等に加工し、県内事業者へ販売
- ⑥ 枝肉を自社の加工施設で部分肉等に加工し、県外事業者へ販売

### (意見等)

- ・ 現在の状況はと場施設をと畜頭数の10%程度を利用しているが将来像はと場併設の清潔な環境で処理、販売を考えている。今後の人材雇用の難しさを感じているため。

## 3 内臓の取扱い状況

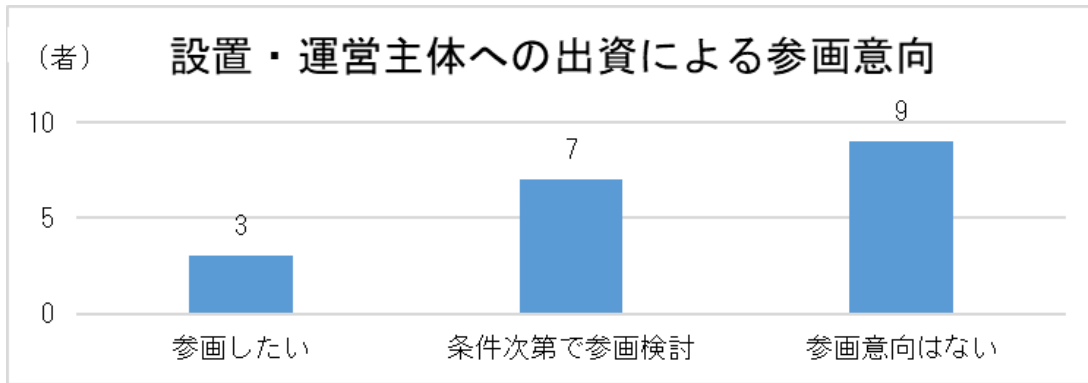


- ① 内臓を食肉センター内の加工施設で加工し、県内事業者へ販売
- ② 内臓を食肉センター内の加工施設で加工し、県外事業者へ販売
- ③ 内臓を自社の加工施設で加工し、県内事業者へ販売
- ④ 内臓を自社の加工施設で加工し、県外事業者へ販売

### (意見等)

- ・ 現状内臓の引き取る業者が少なく自社で販売しているが、人材不足のため新と場に内臓を一手に請け負う業者が現れれば原木は引き取って頂き製品として仕入れ拡売に注力したいと思う。

#### 4 設置・運営主体への出資による参画意向



##### ① 参加したい（理由）

- ・ 地元生産者とのつながりや事業継続をしていくため。
- ・ 県内の食肉センターは、県内産畜産物の流通に欠かせない施設だから
- ・ 牛をと畜する場所が県内に必要な為。

##### ② 条件によっては参加を検討したい（条件）

- ・ 設置場所による。
- ・ 設置場所について、自社にとって現状の利便性が保たれるかどうか。
- ・ 自社でのと畜利用はなく、外部からの購入のみ。
- ・ 生産者、食肉事業者だけでなく、新潟県、各市の出資参加。
- ・ わが社との関係性を強化する事や新規設立企業の独立性を保ちながら両社の協業を促進する事が可能になると思われる。
- ・ 食肉販売まで行くと競合することから、加工までに留めることを条件に出資を検討したい。

##### ③ 参加する意向はない（理由）

- ・ 食肉センターの莫大な経費は行政で無ければ成り立たないと考えます。生体の搬入が今後どのように増やして行けるのか？新潟県の食肉マーケットの場合は大手量販店側が価格の決定権が有り末端販売店からも今回の新と場の計画に参加して頂き県内業者からの納入品目、数量を伸ばせれば県内扱い頭数が増えて運営にもプラスに成るのでは？
- ・ 新たな会社ができれば解散するため出資はしない。

設置場所等の条件次第で参加を検討する者は多い

#### 5 今後設立予定の設置・運営主体の会社に引き継ぎたい又は引き継いでもよい事業

- ・ 現在、食肉加工の人員が不足しておりと畜からの一貫で枝肉を持ち出すことが無く衛生面も含め変えて行ければ良いと思う。
- ・ 輸出業務関連、アウトパック業務 等
- ・ と畜に関するものは引き継ぐ。
- ・ 併設される加工処理施設の全容がはっきりすれば、「作業委託」をお願いする可能性がある。
- ・ 加工業務の一部（但し、加工料次第）
- ・ カット工場併設であればカット業務を検討する。

一部、委託等を検討する声はある。

## 6 設置場所の条件

### ○ 輸送利便性、配送コスト

- ・ 新設食肉センターを利用するにあたりと畜も含め現在のミートプラントと同じような距離で食肉加工を依頼した場合の製品出荷の他輸送利便性を強く考えます。
- ・ 現在、当社は毎日仕入れで新潟市食肉センターを利用しているが、遠方になると仕入れが困難になり、利便性が悪化すると思われる。
- ・ 新潟市と長岡市の間くらいの方が良いかと思う（高速道路のインター近辺）。
- ・ 週5日、毎日5頭ずつしか引き取りにいかないのと同じ場所じゃないと困る。
- ・ 配送コスト等を考慮し、利用業者が多い地区に新設を考えていただきたい。
- ・ 現在の新潟市食肉センターは交通アクセスが非常に良い場所なので同等レベルの交通アクセスを希望します。現在の新潟市食肉センターの近隣地になればと希望します。
- ・ 日々、新潟市内・市外の複数の生産者を集荷搬入するため、交通の便を重視する
- ・ ①飼養地からの輸送利便性。②食肉事業者の輸送利便性。設置場所により、新たな輸送コスト等が発生するため。
- ・ 移動距離、金額、緊急と畜対応

### ○ 雇用、水道光熱費、家畜伝染病考慮した立地

- ・ 雇用の継続及び雇用の確保。
- ・ 人手不足、水道光熱費を考えた施設の建設。県内生産者が家畜伝染病になっても営業停止しない距離の立地。
- ・ 地下水などが使用できる場所、上水道だけだと負担が大きい。
- ・ 現従業員の通勤出来る場所。新潟市内。

### ○ 総合的意見

- ・ ①事業主体:事業主体が一般業者では本末転倒、当然競合する同業者を排除する可能性もある、中立性を保てる行政が主体とならねばいけない。②設置場所:安直に県の真ん中で妥協ということにはならないのでは。突然既存地以外でとなると食肉事業者の金銭的負担（施設新設、会社移設、移動距離他）等もあり、荷主会社を降りる法人も出てくるのでは。③地域との親和性:正直受けてくれるところがあるのか疑問である、既存立地の近接地が時間のロスなく建設しやすい。
- ・ 飼育地からの輸送、利便性・枝肉、加工肉の引き取り輸送の利便性、取水コストの低価格性、生産者の輸送コスト、弊社の引き取りコストを低く抑えたいため施設の運営コストを抑えるために取水コストは低い方がいい
- ・ 飼養地からの輸送利便性に加工・生体の搬送、生肉、内臓の引き取りなどの負担が増える為、補助金に限らず実務的なフォローが必要。

利用者の立場での回答としては、輸送の利便性や配送コストを考慮した意見が最も多かった。

運営面を考慮して、雇用や光熱水費を重視する意見も見られた。

## 7 具体的な設置場所

### ○ 新潟市内

- ・ 現在の中央卸売市場の近辺では無理か？利用者にとって鮮魚・青果・精肉が揃っていた方がよいのかと思い・・・構内に観光施設を作り飲食・販売などを充実させることが出来ないか？
- ・ 県中央部のところか新潟市西蒲区地域辺り。
- ・ 新潟市または新潟市近郊で高速のインターからアクセスのいいところ。県内全域からの交通の便がいいから。
- ・ 新潟市内、最短距離で行き来できる事。
- ・ 現時点以上の距離、時間のかかる所は使用しない。

### ○ 新潟市食肉センター付近

- ・ 現在地（隣接地）、雇用の継続及び雇用の確保。
- ・ 現在と同じ場所、もしくはその付近。
- ・ 現在の新潟市食肉センターは、新新バイパス、黒埼スマート IC、新潟西 IC から近く、利便性が高い。新潟市食肉センターの近隣地がふさわしいと思う。
- ・ 既存地で、新潟市食肉センター隣接地①既存地で離れた遠方に建設してはたしてセンターの従業員の確保が可能なのか。（新潟市食肉センターのプレ稼働は現行従業員で固めたはずでもかなり苦戦して徹夜していた。未経験者しか集められない場所で稼働スタートさせることができるのか甚だ疑問、採用の問題もある）②荷受け機能を有する食肉事業者の多数を占めているのは下越エリアとりわけ新潟市である、そこを配慮しないということにはならないのでは。（生産農場の輸送距離増大については、行政なり関係団体・荷受業者で手段の補助（家畜車導入、庭先集荷切替、運転手雇用補助、運賃助成他）を構築すべきである。

### ○ 長岡食肉センター付近

- ・ 長岡食肉センター脇の土地、旧日本ハム工場跡。現状食肉センターの隣で移転が容易では。

### ○ 新潟市食肉センター付近または長岡食肉センター付近

- ・ ①（株）長岡食肉センター付近。県内の中央に位置し、高速道路の IC が近く、空き地もあるため。②新潟市食肉センター付近。食肉事業者の多くが、新潟市内を所在地としているため。
- ・ 新潟、長岡どちらかの既存の場所。新設となると別の問題が浮上し、更に長引く事が想定される為。

### ○ 具体的場所なし

- ・ 配送コスト等を考慮し、利用業者が多い地区に新設を考えていただきたい。
- ・ 人手不足の対応として小人化及び小力化の設備、水道光熱費削減のための設備

具体的な地名として挙がっているのは、新潟市食肉センター、長岡食肉センター、中央卸売市場の付近

## 8 必要な機能

### ○ 輸出

- ・ 輸出については経験、販売先など勉強不足で分からないのが正直な意見。国内の新設と畜場など視察して現在とどのくらい違う施設なのか知りたい。
- ・ 輸出対応、アウトパック対応ラインの設置。今後の畜産・食肉事業には輸出対応は不可欠な条件であり、また要求される輸出形態等に柔軟に対応できる加工設備が必要。
- ・ 全ての国の輸出対応ができればいいが、最低シンガポール、香港、台湾、ベトナム、米国、中国が必要。今後の人口減少を考えると海外市場への販売が畜産物の生産維持、拡大には必要と考える。食肉加工・販売の充実：少人数でも稼働可能な自動化できる部分は自動化された設備。今後の少子化、人手不足を考えると中小企業で食肉加工施設の維持、経営は難しく共同の施設に集約した方がいいと考えるまた、新食肉センターの経営のため利益確保の面で寄与すると思う。
- ・ 輸出対応がないと特に牛肉関係者が困るのでは。（牛肉は併設加工施設が建設される場合、搬入不可となる、牛肉の世界は他市場からの搬入が当たり前である、併設加工施設には通常ライン設置等の配慮も必要なのでは。）

### ○ 併設加工施設の建設

輸出対応では基本具備しないといけない施設である（認定施設外での加工処理は認められないため）

### ○ 高度な衛生レベル

- ・ 高度な衛生レベル。
- ・ 衛生面を重視し、枝肉の搬入時は極力外気に触れないような設計にしていきたい。
- ・ 高度な衛生レベルで豚肉を真空で賞味期限を 30 日以上つけられるような製品出荷をしてもらいたい。
- ・ 衛生面に優れている施設、機械化により人の技術が不要な施設。衛生管理に関しては、将来もっと厳しくなっていく。人材が減っている。
- ・ 高度な衛生レベルについてはセンター自体が国の定める「HACCP に準じた施設」のため当たり前のことである。
- ・ HACCP 等の高度な衛生レベル。取引量の多い大企業は HACCP 等の高度な衛生レベルが必修となっている。
- ・ 人的部分と機械等を利用し生産性を上げれて、衛生的に。

### ○ セリ機能、枝肉カット・内臓処理、事務所機能、一般販売店舗

- ・ 輸出対応、食肉加工および高度な衛生レベル、食肉加工・販売の充実。和牛の国内需要の落ち込みにより輸出に活路を見出す中、輸出対応していないと場に魅力を感じられないため。また、セリ機能を具備することで、現在、東京出荷の牛肉が県内にシフトすることが期待されるため。
- ・ 輸出対応、枝肉カット処理、内臓処理、事務所機能（内容次第では本社にする）、一般販売店舗併設。

輸出対応を求める声は最も多く、そのために必要な併設加工施設建設の意見もあった。

## 9 輸出対応

### (1) 牛

#### ○ 多い順

国・地域名	回答者数
香港	4
米国、中国、台湾	3
カナダ、シンガポール、ベトナム、タイ、欧州	2
マカオ、中東	1

#### ○ エリア別

エリア（国・地域名）	延べ回答数
アジア（中国、香港、台湾、マカオ、シンガポール、ベトナム、タイ）	17
北米（米国、カナダ）	5
欧州	2
中東	1

※「東南アジア諸国」の回答は「シンガポール、ベトナム、タイ」として集計

### (2) 豚

国・地域名	回答者数
香港、シンガポール、ベトナム、タイ	各1

#### (意見等)

- ・ 機会があれば勉強したい。
- ・ 国の補助金の大きさと交付時間短縮には輸出対応機能は不可欠。

牛は、アジア向けの輸出を希望する回答が多く、次いで北米であった。  
豚も、輸出について希望する声があった。

## 10 食肉センターの再編に関する希望や意見（自由記入）

- ・ 現在のミートプラントは出入り業者が昔より少なく成って業務に支障が有ると思う。新設と場はより多くの食肉業者・末端販売店が集まれる様な食肉センターに成り、業者間の業務が円滑に行われるような施設で生産者からの相対仕入れの他、セリ機能を取り入れ近県からの県外業者など取り込み運営を盛り上げられないか？
- ・ 場所は今の方が良いと思う。枝に水を流すライン（20分ぐらい）を作った方が良いと思う。
- ・ 大型化大量生産の建物・設備ではなく、拡張できる土地は持ちながら、コンパクトな食肉センターにして、償却等で赤字にならない食肉センターにしてもらいたい。
- ・ 特段の意見はないが、場所は新潟市内にあればいいと思う。